

『コンパクト賞品保管機』

コンパクトだから「思い通り」のセルフ化を

設置場所を選ばないコンパクトなグローリーの『賞品保管機』。ホールの新しい営業スタイルをサポートする。



コンパクト賞品保管機 JK-C500/JK-C500E



専用の賞品ケースを使用し、納品されたケースをそのままダイレクト装填。仕入れ・補充作業が簡単に完了する。



賞品の払い出しは最短2.3秒。さらに、賞品を重ねて払い出しすることにより、賞品の取り忘れを防止する。

「増床したパチスロコーナーにセルフカウンターを設置したい」「島端や出入口付近でセルフ交換ができればお客様に便利」。そんな様々なホールのニーズに対応し、新しい賞品交換シーンを実現するのがグローリーの『コンパクト賞品保管機』だ。

コンパクトで

高性能な賞品保管機

最大の特長は、設置場所を選ばないコンパクト設計であること。それを実現するのが横幅50cm、奥行き65cm、高さ約118cmのコンパクト賞品保管機『JK-C500』だ。精算機と一体化しても、わずか1メートルのスペースがあれば設置できるため、壁際にセルフPOSを並べるATMスタイルや、島端等の動線のよい場所への設置など、様々なシチュエーションでセルフ化を

サポートする。

コンパクトな仕様は利用客にとっても利便性が高い。まず賞品の払い出し部が確認しやすく、賞品が重ねて払い出されるため取り忘れがない。音声アナウンスによる案内のほか、万が一取り忘れがあった場合は『JK-C500』が自動収納する仕組みで窃盗防止を図っている。安心・安全面に配慮した設計だ。

また、残高精算をしながら、その場所で、賞品交換まで行える点も魅力だ。わざわざ離れた精算機まで行く手間がなく、その場で全ての操作が完結。ストレスのないスムーズな賞品交換を可能としている。

スタッフにとっては、営業後に『JK-C500』をそのまま金庫として活用できる残置運用ができることが強みだ。残った賞品を回収する手間や賞品紛失

設置スタイル



ATMスタイル



島端スタイル

システム構成



セルフPOS端末機



カード回収ユニット



レシートプリンター



コンパクト賞品保管機 JK-C500/JK-C500E



G8精算機

のリスクがなく、閉店作業の軽減に貢献する。賞品を補充する際も専用ケースを装填するだけ。賞品に手を触れることなく補充が可能で、ここでも省力化を図っている。

賞品保管枚数は、3ミリ賞品で1200枚。1・5ミリ賞品なら2400枚を収納できる。

カード・賞品・精算に
取り忘れ防止機能

それでは『セルフPOSシステム』を構成するその他の製品群の特長を詳しく紹介したい。簡単な操作でセルフ交換をサポートするのが、セルフPOS端末機『SJA-100』、『カード回収ユニット』、『レシートプリンター』の3製品だ。

遊技客は『カード回収ユニット』に会員カードやビクターカードをセットし、タッチパネル方式のセルフ専用端末機『SJA-100』の案内に従って操作。『レシートプリンター』から交換内容が出力される。

『カード回収ユニット』は、カー

ドを複数持っている場合、合算して交換を行い、端玉（メダル）を会員カードにまとめることもできスマートなセルフ交換を実現する。

セルフPOS端末機と連動する『精算機』は、賞品交換とカード残額の精算が一連の操作で完了する。払い出した残額の取り忘れ防止機能が付いており、単体での設置も可能だ。

賞品交換のセルフ化は遊技客の利便性を高め、スタッフの省力化や業務効率の向上に寄与する。その中でもグローリーナスカの『セルフPOSシステム』はコンパクトだからそのメリットが大きい。これからのホール営業を支える主要システムとしてぜひ活用してほしい。

コンパクト賞品保管機
JK-C500
特設サイトはこちら



セルフPOSシステム《玉屋409雑餉隈》導入レポート



タッチパネルの端末機のナビに従い、セルフ交換を行う年配層の遊技客。誰でも簡単に操作できる。



セルフPOS端末機の液晶で操作方法を案内。同店ではスタッフの呼出ボタンも装着。



コンパクト賞品保管機から払い出せる賞品は、重ね出し機能により取り忘れを防いでいる。



メインの出入口に近い壁際に2基の『セルフPOSシステム』を設置し、完全オール・セルフを実現。

オール・セルフで省力化と生産性向上に弾み

オール・セルフを前提にグローリーの『セルフPOSシステム』を導入した《玉屋409雑餉隈》。生産性向上に弾みをつける。

業務負担を軽減し サービスを最大化

福岡、佐賀でチェーン展開する玉屋グループの最新店《玉屋409雑餉隈（ぶつしよのくま）》が昨年12月20日にグランドオープンした。居抜き出店となった同店は、店内レイアウトを全面リニューアルし、パチンコ68台、パチスロ336台のパチスロ中心の営業へと切り替えた。

その新しくなった営業スタイルに合わせる形で導入したのが、コンパクト賞品保管機などを取り入れた『セルフPOSシステム』だ。台間ユニットや会員管理システムなどの主要設備とあわせてグローリーナスカ製を導入した。

同店の内海裕治店長は、「オール・セルフの営業体制を前提にしていました。お客様への還元を進めていくには、業務負担を

軽減し、スタッフの数を減らし、でも提供できるサービスを最大化する必要があると考えたからです。セルフPOSについては、他社の選択肢も検討しましたが、機器の互換性やホールコンピュータとの連携の面でもグローリー製が優れていると判断しました」と、セルフPOSの導入理由を語る。

遊技客に便利な 精算機との一体型

セルフPOSは、メインの出入口に近い一角に2基を設置。すぐ横に端玉賞品を揃えたバイキング形式の賞品棚を用意し、セルフ交換と精算を終えた後にスムーズに端玉賞品を取って退店できる流れを提供している。

「もともと小さい店舗で、そこに遊技機をパンパンに入れたので、スペースに余裕がない中で、

将来的に1人体制の ホール対応も視野

コンパクトにキレイに収まりました。また、賞品交換と精算機が一体型になっているため、一括で残額精算が行えます。精算機が別だと、お客様にとってそれほどメリットはないですが、今のこの形はすごく良いと思います」と、コンパクトなサイズと、賞品交換から残高精算までがその場でできる点を評価している。

遊技客の反応については、「最初は操作方法が分からない方もいましたが、今ではほとんどの方が問題なく使用されています。機種構成上、若い世代のお客様が多く、セルフ対応に抵抗は少ないようです」と話す。

現在は2人体制でフロアを回し、セルフPOSの使い方など案内しているが、将来的には1人体制でも十分に対応可能と見越している。

今後の営業について内海店長は、「省力化の目的は、業務の効率化ではなく、生産性の向上」



内海裕治店長



《玉屋409雑餉隈》
福岡市博多区南本町2-1-1
総台数：404台（P68台、S336台）

です。空いた時間を活用して、接客や店舗サービスの質を上げることについていきたいです。その点でいえば、グローリーナスカさんの『遊動分析』もフル活用し、お客様の行動パターンを把握しています。年齢や遊技傾向に基づいて営業戦略を立てることができると、会員カードと連携したマーケティングの可能性も検討しています」と、セルフPOSによる生産性の向上と『遊動分析』の積極活用により、営業の強化を図る考えだ。